

上尾市立上平小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

「心豊かで思いやりがあり、
自ら学ぶ健康でたくましい子」

学校課題研究主題

生き生きと活動する子供たちを目指して
～国語教育を通して自分の言葉で自分の思
いを伝えられる児童の育成～

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査

- 国語
 - ・平均正答率は、全国・埼玉県と比べて、ほぼ同等であった。
 - ・要旨の把握、必要な情報を見つける、自分の考えをまとめる等に、課題が見られた。
- 算数
 - ・平均正答率は、全国・埼玉県と比べて、ほぼ同等であった。
 - ・図形とデータ活用の問題で、式や言葉を用いて理由を記述する事に、課題が見られた。
- 理科
 - ・平均正答率は全国・埼玉県と比べて、ほぼ同等であった。
 - ・結論時、理由の記述に課題が見られた。

R7 埼玉県学力・学習状況調査

- 国語
 - ・学力を伸ばした児童の割合は、6年生(84%)、5年生(71.3%)とも、埼玉県・上尾市よりも上回った。特に伸びたのは5年生の上位25%～50%の層で、5段階アップした。平均正答率は、埼玉県・上尾市を下回った。
 - ・文章の読み取りと文章構成が課題である。
- 算数
 - ・学力を伸ばした児童の割合は、6年生(77.3%)、5年生(75%)とも、埼玉県・上尾市よりも上回った。特に伸びたのは6年生の最上位層で、4段階アップした。平均正答率は、埼玉県・上尾市を下回った。
 - ・図形や記述式の問題が課題である。

R6 上尾市立小・中学校学力調査

- 国語
 - ・平均正答率は全国と比べて、どの学年も同等であった。経年比較では、3年以外は全国を少し下回った。「条件作文」は、よく書けていた。主体的に学習に取り組む態度は、目標値を上回る学年が多かった。
- 算数
 - ・平均正答率は全国と比べて、2～5年は同等であり、6年は下回った。経年比較では2年以外は全国を下回った。「変化と関係や図形」の領域での「記述問題」に課題が見られた。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得

- 一般的な語句や専門用語などの特質を理解し、適切に使うことができる力
- 既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力
- 必要な情報を精査する力

思考力・判断力・表現力等の育成

- 記述されている内容を正しく理解する力
- 自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして記述する力
- 自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして発表する力

学びに向かう力・人間性等の涵養

- 難しい問題について、先生に聞いたり調べたりして粘り強く取り組む力
- 児童が自ら学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力
- 学んだことを実生活の様々な場面で活用する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得

- 児童の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、習熟度別の指導等、指導方法の工夫を図る。
- 互いの意見や考えを広げたり、深めたりする話し合い活動を行い、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業を展開する。
- 文章、図表、グラフ等から情報を取り出し、情報同士を関連付ける授業を展開する。

思考力・判断力・表現力等の育成

- 児童の言葉を生かした授業のまとめを行うことを通して、深い学びを実現する。
- 単元や題材のどこかで必ず、児童が対話を通して主体的に学習課題を解決する場面を設定する。
- ICT機器やICT端末を活用した思考を深める学習活動を導入する。

学びに向かう力・人間性等の涵養

- 児童のつまづきの早期発見に努め、個に応じた適切な指導を行う。
- 学習課題の解決に向けて、見通しをもたせ、簡潔で分かりやすい指示・発問を工夫する。
- 授業で学んだことを振り返る時間を確保し、授業内容の確実な定着を図る。

本校の特色ある取組

- ・話す、聞く、話し合う、語彙力向上のためのドリルタイム
- ・図書館教育の充実
- ・上平ファームによる体験活動・E-cafe等の英語・外国語活動
- ・高学年デジタル教科書、Google Classroom、まなびポケット、Eライブラリー、ICT端末の活用など、ICT教育の推進

家庭教育との連携

- ・学校応援団、学習ボランティアの活用
- ・PTA、おやじの会による学習環境の整備
- ・読み聞かせボランティアの活用
- ・さくら連絡網を活用した情報の共有

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句や専門用語などの特質を理解し、適切に使うことができる力 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力 ③必要な情報を精査する力	④記述されている内容を正しく理解する力 ⑤自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして記述する力 ⑥自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして発表する力	⑦難しい問題について、先生に聞いたり調べたりして粘り強く取り組む力 ⑧児童が自ら学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力 ⑨学んだことを実生活の様々な場面で活用する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	③	③物語の学習を通して、誰が、何をしたという簡単な結末をまず理解させる。そのうえで、詳しく肉付けをし、物語の全体を理解させる取組。	
算数	②	②計算カードやドリル演習などの反復学習をさせる。ICT機器を活用し、個別最適な学び及び習熟の場を設定する取組。	
生活	⑥	⑥観察や制作の活動を通して、自分の気付きを絵や文章で表現させる取組。	
音楽	⑨	⑨鍵盤ハーモニカの演奏や歌唱の活動を通して、様々な曲に触れ、体全体で音楽に親しませる取組。	
図画工作	⑦	⑦友達の作品や良い作品を見る活動を通して、もっと良いものを作るために、試行錯誤し、問題解決する力を養う取組。	
体育	⑦	⑦様々な運動を楽しむ活動を通して、苦手なことも楽しみながらできるようにさせる取組。	
英語活動	⑨	⑨英語に慣れ親しませ、目的・場面・状況を意識した授業展開をしていく取組。	
特別の教科 道徳	⑤、⑨	⑤今日のねらいを明確にし、道徳的諸価値に迫る発問を吟味する取組。 ⑨動作化や役割演技を通して、登場人物の心情を考えさせ、自分事に置き換える活動を行う取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句や専門用語などの特質を理解し、適切に使うことができる力 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力 ③必要な情報を精査する力	④記述されている内容を正しく理解する力 ⑤自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして記述する力 ⑥自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして発表する力	⑦難しい問題について、先生に聞いたり調べたりして粘り強く取り組む力 ⑧児童が自ら学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力 ⑨学んだことを実生活の様々な場面で活用する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、③、④	①新出語句とそれに関連した語句を調べて理解する取組。工夫ある音読をさせる取組。掲示や日常の学校生活の中で語彙を増やす環境をつくる取組。読書活動の充実を図る取組。 ③④物語では登場人物の心情を読み取る力を、説明文では文章構成から筆者の主張を読み取らせる取組。	
社会	②、③、⑦	③写真やグラフ等の資料から情報を読み取り、そこから考えられることやなぜそうなのかを話し合う活動を取り入れる取組。 ③⑦意見交流により、多様な見方があることに気付かせる取組。ICT機器を活用し、個別最適な学び及び習熟の場を設定する取組。	
算数	②、⑤、⑦	②⑦既習事項の定着を図り、分からないことや疑問に思ったことを素直に質問できるようにする取組。ICT機器を活用し、個別最適な学び及び習熟の場を設定する取組。 ⑤意見交流により、多様な見方があることを知らせる取組。	
理科	②、③、⑦	②③⑦観察や実験を通じて身近なことへの関心を高め、既習の知識を生かして解決する経験を積ませる取組。 ICT機器を活用し、個別最適な学び及び習熟の場を設定する取組。	
音楽	①、⑥	①音符や記号、リコーダーの運指の練習をするなど、演奏に必要な基礎的技術を繰り返し指導し身に付けさせる取組。	

		⑥児童が自らの表現のよさに気付けるよう、互いの演奏を聴き合う活動を多く取り入れる取組。掲示や日常の学校生活の中で語彙を増やす環境を整備する取組。	
図画工作	⑧	⑧作りたいものや描きたいものを考えながら活動し、出来上がるまでの自分の活動を振り返るようにする取組。	
体育	⑦、⑨	⑦難しいと感じている動きや作戦などを、友達や先生に発表する時間を設ける取組。 ⑨走・跳の運動や投の運動で学んだことを日常生活で行えるように、運動のポイントを伝える取組。	
外国語活動	①、⑨	①⑨既習の外国語表現を意識的に繰り返し使い、外国語に慣れ親しませる取組。ＩＣＴ機器を活用し、個別最適な学び及び習熟の場を設定する取組。	
特別の教科 道徳	⑤、⑥、⑨	⑨ねらいを明確にし、発問を吟味し、道徳的諸価値に迫る学習を展開する取組。 ⑤⑥考え議論する道徳を目指し、話し合い活動を取り入れ、主体的に関わることができるようにする取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句や専門用語などの特質を理解し、適切に使うことができる力 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力 ③必要な情報を精査する力	④記述されている内容を正しく理解する力 ⑤自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして記述する力 ⑥自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして発表する力	⑦難しい問題について、先生に聞いたり調べたりして粘り強く取り組む力 ⑧児童が自ら学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力 ⑨学んだことを実生活の様々な場面で活用する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	⑤、⑥	⑤児童が自分の考えをノート等に記述する時間を確保し、筆者の考えから自分はどうか考えるかについて、自分の考えをまとめさせる取組。 ⑥筋道の通った発表ができるように、文章の構成や展開を考えさせる取組。	
社会	③、⑤、⑦	⑦地域素材の教材化と観察や調査、見学等の体験的な活動を充実させる取組。 ③1人1台端末や資料を活用して、自ら考えたり、調べたりする問題解決型の授業を意図的にを行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る取組。 ⑤調査を基に Google Classroom やまなびポケットを活用した意見の交流や協働学習などを通して、考えたことを説明したり、話し合ったりする取組。	
算数	②、⑤	②既習事項を提示し、問題解決に向けた見通しをもたせ、自力解決につなげられるようにする取組。 ⑤友達の考えがどのような考えなのか、自分の考えと比較し、共通性や差異に気付かせ、根拠をもって考え説明できるようにする取組。	
理科	②、⑧	②既習事項や体験から自然の事物・現象を予想し、実験・観察方法を考える場面や結果処理・考察の場面で、意見交換や議論をし、自分の考えをより妥当なものにする取組。 ⑧自分の立てた予想を、結果や考察と比較し、振り返りを行う取組。	

音楽	⑥、⑧	⑥思いや意図をもって表現できるよう、グループで話し合いをしたりワークシートに自分の考えを書いたりする活動を取り入れる取組。 ⑧ICT 機器を活用し、自分たちの演奏を振り替えさせる取組。	
図画工作	③、⑤	③自分なりの考えやイメージを深め、広げられるような技法や資料を提示し、アイデアスケッチなどから作成の見通しを立てる活動を行う取組。 ⑤作品について言語による発表の場を設定する取組。	
家庭	②、⑨	②日常生活につながる実践的・体験的な活動を多く取り入れ、繰り返し学習が行えるように家庭と連携し、実践力を高める取組。 ⑨家族や地域と共に生きることに目を向け、身近な人や環境に感謝を伝えるための計画を話し合い、よりよい生活の工夫について考えさせる取組。	
体育	②、⑤	②毎時間の授業のねらいを明確にし、児童に伝えるとともに、個別指導を充実させる取組。 ⑤規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えさせる取組。	
外国語科	②、⑥	②言語活動を工夫し、新出表現と共に既習表現を繰り返し指導する取組。 ⑥目的・場面・状況を明確にした課題を設定し、どうすれば自分の思いを効果的に伝えられるかを考えさせてから、言語活動に取り組ませる取組。	
特別の教科 道徳	⑥、⑨	⑥価値について、主体的に考えることができるように、問題解決的な学習を取り入れた取組。 ⑨話し合い活動を通して、友達の意見を聞き入れながら自分の生活を振り返り、これからの生き方を考えさせる取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
ドリルタイムの実施	・毎週、お題を決めての『グループトークやディベート』、国語の教科書に載っている「言葉の宝箱」を使つての『文章作り』、ICT 端末を使用して個別のドリル学習を通して、児童の話す力・聞く力・話し合う力・語彙力の向上を目指す。
上平ファーム	・苗を植えたり、収穫したりするなど、学校ファームを活用して体験的な活動を充実させる。
読み聞かせボランティア	・読書習慣を身に付けるために、木曜日に図書館や多目的室で読み聞かせの時間を確保するとともに、朝の活動で、自学級や他学級の教師による読み聞かせやボランティアの方による読み聞かせを行う。
E-Cafe の実施	・毎週金曜日の業間休みに、E-Land（外国語教室）において、児童と A L T が自由にコミュニケーションを図る機会をもつことで、その楽しさに気付かせ、児童の英語に対する意欲を高める。
家庭学習の充実	・まなびポケットや Google Classroom、ドリルプラネット、E-ライブラリー等を活用し、家庭の連携した学習の充実を図る。
家庭教育との連携	
音読の取組	・音読カードを使用し、毎日の児童の音読の点検を家庭に依頼する。
家庭への発信	・学年通信やさくら連絡網、学校 HP 等を使い学校の様子を伝え、連絡を密にする。
学校応援団、 おやじの会	・学習活動、学校行事、環境整備等への支援をととして、児童が意欲的に学習に取り組む環境づくりを連携して行う。 ・身の回りの生き物を飼育し、いつでも鑑賞できるよう展示するなど、児童が自然に触れられる環境づくりをする。